

知るといふ復興支援があります。

放射線の ホント



復興庁
Reconstruction Agency

『放射線のホント』原文を読みながら
問題点を考えてみました。

『放射線の
ホント』って
ほんとう
なの？



あれから7年。

未曾有の大震災と原子力災害から7年の月日が経ち、
被害にあった地域も、徐々に復興が進んできました。

しかし、今なお新たな被害も発生しています。
それは、偏見・差別や風評被害です。

(中略)

でも、そんな人々を苦しめているのは放射線そのものではなく、
知識不足から来る思い込みや誤解です。

甲状腺がんの多発、作業員の肺がん死、「被ばくに安全な量はない」など、放射線そのものが人々を苦しめています。『放射線のホント』は放射能影響を風評被害にすり替えています。



そもそも放射線ってなに？

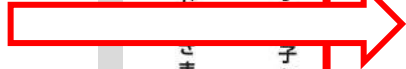
放射能、セシウム、ベクレル、シーベルト…。
なんだか聞きなれない単語がニュースを飛び交い、
みなさんも当時不安になったことでしょう。

でも、赤外線、紫外線、X線、エックス線、
このあたりの言葉ならきつと聞いたことがあるはずで
それらは全て電磁波というものです。

電磁波は波の性質を持っており、
その波の長さが短いものが放射線です。

また、この他にも、高速に飛ぶ小さな粒子
放射線です。

それでは、放射線について具体的に学んで
まいりましょう。



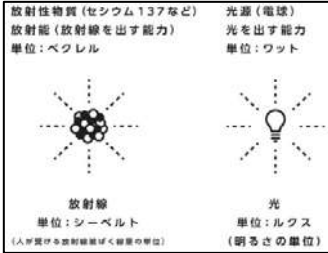
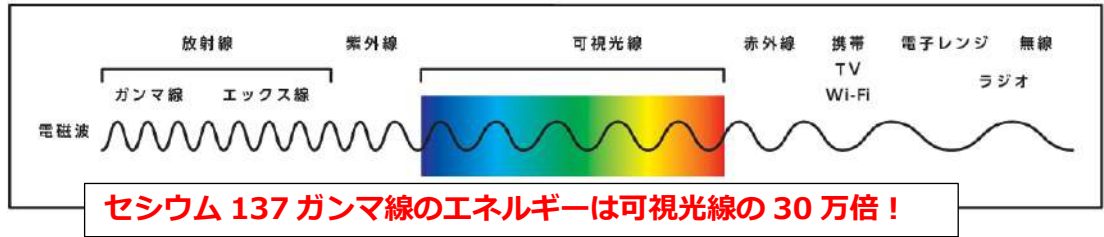
放射線を甘く見せてはいけません

図は『放射線のホント』（以下『ホント』）4 頁の図です。
放射線も可視光線と大してちがわない印象を与えます。

しかし、**セシウム137のガンマ線エネルギーは、
可視光線の約三〇万倍です。**

放射線が私たちの身体に当たると、遺伝子を傷つけ、
がんなど、いろいろな健康被害を引き起こします。
放射線を電球の光に例えるのは、まちがいです。

『ホント』は放射能の怖さをごまかしています。



「ホント」が掲げる「放射線10のポイント」 その1

放射線はゼロにできないの？

ふだんから身の回りにあります。

空気や身体の中にもありますし、

エックス線撮影やCTスキャンでも使われています。

ちなみに、日本人が受ける年間の放射線量は平均で、

自然界から2・1ミリシーベルト、医療行為から3・9ミリシーベルトです。

なので、身の回りからはゼロにはできません。

『ホント』5頁

避けられる被ばくをゼロにするのが基本です。

被ばく線量が多いほど、健康影響が多くなります。

どんなに少ない被ばくでも、「安全な被ばく」はありません。

福島原発事故による無用な被ばくは東電や政府の責任です。

「放射能はゼロにはできません」と言うのは、責任逃れです。

ふだんから身の回りにある放射線も、健康被害を引き起こします。

CTは1回で5〜30ミリシーベルト程度*と線量が高いので、

被ばく線量を引き下げる取り組みが進められています。

* 放医研ホームページ <https://goo.gl/yR5gkx>

放射線は人から人にうつるの？

放射線はうつりません。

ウイルスとは違いますし、ばい菌のように増殖もしません。

**放射線はうつりませんが、
放射能は移ります。**

福島原発事故で飛散し住民の衣服などに付いた放射能が、住民と一緒に移動し、再び飛散するおそれがあります。だから、事故直後、避難した人々が避難所に入る前に汚染を検査し、汚染度が高ければ除染したのです。

**「放射線はうつりません」は、
放射能の拡散を助長するおそれがあります。**



放射線の影響は

生まれてくる子どもや孫に遺伝するの？

遺伝しません。

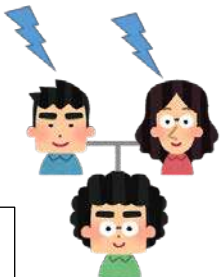
放射線を受けたことによる

ヒトの遺伝性影響を示す根拠は報告されていません。

また、事故の時、お母さんのおなかの中にいた子の

先天的障害の発生率なども、他の地域の子どもと変わりません。

放射線は遺伝子を傷つけ、
突然変異を起こします。
放射線影響の遺伝がネズミや
動植物で証明されています。
ヒトでも遺伝します*。



イギリスの再処理工場周辺で、
被ばくした父親から生まれた子には、
白血病が多いという報告もあります。

*ICRP（国際放射線防護委員会）
2007年勧告では、遺伝的影響の
名目リスク係数は1シーベルトあ
たり0.2%とされています。

放射線を受けると身体に悪いの？

放射線の健康への影響は

ある・なしではなく「量」が問題です。

ふだんの身の回りの量はわずかなので、健康への影響はありません。

放射線は見えませんが、簡単に測ることができます。

わずかな被ばくでも、
健康に影響があります。

「ふだんの身の回りの量はわずかなので、
健康への影響はありません」は誤りです。

被ばく量が少なければ、影響が現れる人は減りますが、
ゼロになることは、ありません。

自然放射線でも、累積1ミリシーベルト被ばくすると
子どものがんが増えることが報告されています。

被ばく影響は蓄積するので、年間被ばく線量ではなく
累積被ばく線量が問題です。

スイスの15歳未満児童に対する自然放射線の影響

	累積1mSv当たりの危険度増加率
全がん	2.8%
中枢神経系腫瘍	4.2%

どれくらいの量なら健康に影響があるの？

100ミリシーベルト以上被ばくすると

がんで死亡するリスクが上がると言われていますが、

100〜200ミリシーベルトの被ばくでの

発がんリスクの増加は、

野菜不足や塩分の取りすぎと

同じくらいです。

ちなみに100ミリシーベルトは、航空機で東京・ニューヨーク間を
約500〜1000往復した場合の被ばくに相当します。

『ホント』13頁

100ミリシーベルトの被ばくとは・・・

「塩分の取りすぎと同じくらい」と言われると

大したリスクではないのかと感じそうですが、

ICRP（国際放射線防護委員会）によれば、

100ミリシーベルト被ばくすると

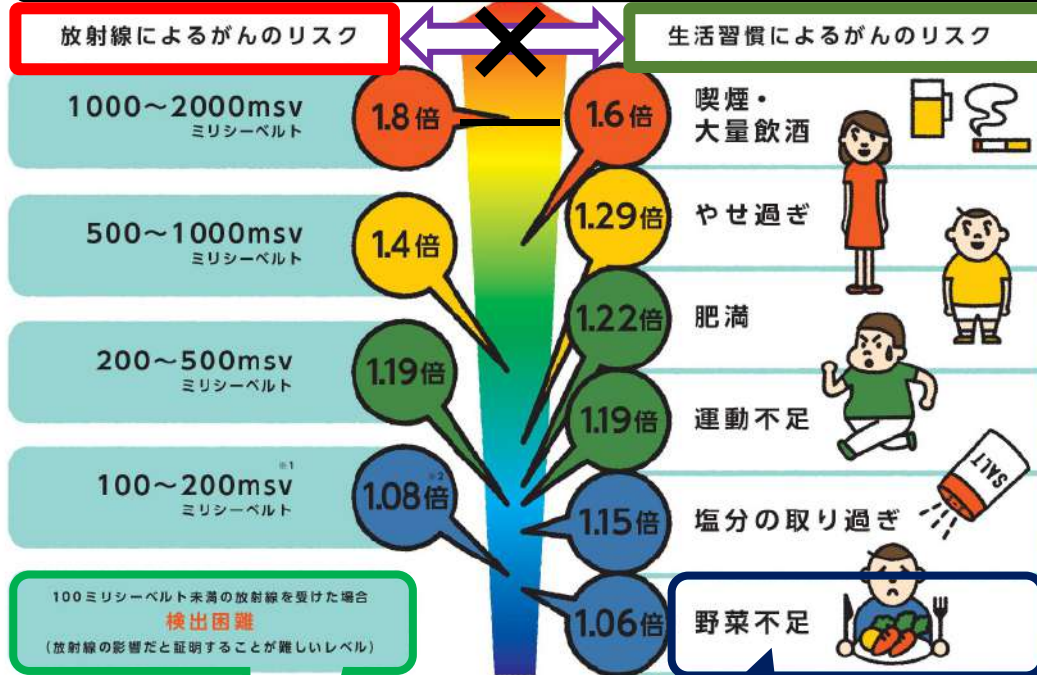
がんで死亡する人が0・5%増えます。

1・2億人が100ミリシーベルトずつ被ばくすると、

がんで亡くなる方が60万人も増えます。

【がんのリスクとその要因（放射線や生活習慣病によるもの）】

被ばく低減は東電・政府の責任。生活習慣リスクと比較は責任逃れ



※1: 100ミリシーベルトは、航空機で東京-ニューヨークを約500~1000回飛行した場合の被ばく量。または、1kgのウランを10kgのウランに濃縮する際の被ばく量。被ばく(注)に相当。(注) 食品に含まれる放射線物質がセシウム137で検出される場合

※2: 放射線の被ばくがなく、国中のどの生活習慣もない人と比べて発がんリスクが何倍高いかという数値

出典: 国立がん研究センターウェブサイトを基に復興庁作成

福島原発事故による被ばくをゼロにするのは、東電や政府の責任であり、生活習慣リスクの大小と無関係です。放射線と生活習慣とのリスク比較を持ち出すのは、被ばくさせている東電や政府の責任逃れです。

ウソです！

論文には「がんのリスクは野菜や果物の摂取量によって変わりませんでした」と書かれているのに、ここでは1・06倍と書かれています。

100ミリシーベルト未満の放射線を受けた場合

検出困難

(放射線の影響だと証明することが難しいレベル)

とんでもない間違いです。

200万人もの子どもを調査した結果、1ミリシーベルトの被ばくでも、発がんリスクが上がることが報告されています。

「ホント」が掲げる「放射線10のポイント」 その6

東京電力福島第一原子力発電所の事故の放射線で、
周辺の人々の健康に影響はなかったの？

周辺の人々が受けた放射線量に関する調査などの結果、
福島県での被ばく線量は極めて限られており、

健康に影響が出たとは証明されていません。

『ホント』17頁

**事故後、子どもたちの甲状腺がんが急増、
214人に達しています。**

被ばく線量が推定されているのは、事故後4ヶ月間の
外部被ばく線量で、甲状腺の被ばく線量は不明ですが、
甲状腺がんが見つかる割合は福島県内でも地域によって
違うので、**放射能による影響は明らかです。**

**福島原発事故で避難した人々のうち
2200人以上が**

「避難生活」関連死*しています。

被ばくによる健康影響を避けるために避難したのですから、
「避難生活」関連死は、放射線の影響です。

*2018.3.3 福島民報 <https://goo.gl/eXHtkh>

「ホント」が掲げる「放射線10のポイント」 その7

東京電力福島第一原子力発電所の事故の放射線で、将来的に病気の人が出てくる心配はないの？

原子放射線の影響に関する国連科学委員会の報告書では、

- ・ 亡くなったり、重い症状となったり、
- ・ 髪の毛が抜けたりした人はいない
- ・ 今後のがんの増加も予想されない
- ・ チェルノブイリ原発事故のような放射線による多数の甲状腺がんの発生を福島県では考える必要はない

と評価されています。

**福島原発事故で被ばくし、がんになった作業員17人が労災認定を申請。
白血病、甲状腺がん、肺がんなどの作業員5人が労災認定されています。**

原子放射線の影響に関する国連科学委員会報告書によると、

- ・ 福島県民の生涯被ばくは平均10ミリシーベルト、固形がんが0・4%増えると推定される*ので、**がんになる福島県民が2800人増えると推定されます。**
- ・ 避難区域の1歳児の甲状腺等価線量は15〜83ミリシーベルトと推定されており**、**甲状腺がんがさらに増えるおそれがあります。**

*UNSCEAR 2013年報告書（日本語）第I巻 附属書A 171項 **同附属書A 表6

東京電力福島第一原子力発電所の事故は、チエルノブイリと同じくらいの規模だったの？

大きく2つ違うところがあり、

- ・ 空气中に放出された放射性物質の量は7分の1でした。
- ・ 避難指示や出荷制限など事故後の速やかな対応によって、身体の中に取り込まれた量もずっと少なかったです。



放出された放射性物質の量は推定値で、
実際の10倍から10分の1の間。
確かなことはまだ分かりません。
事故初期に体内に取り込まれた放射能はほとんど測定されていません。
チエルノブイリでは年1ミリシーベルトを超える地域は移住権利ゾーンですが、福島では年20ミリシーベルト以下になると帰還を強要しています。

福島県内の主要都市の放射線量は
今どうなってるの？

事故後7年で大幅に低下し、
国内外の主要都市と
変わらないくらいになりました。

『ホント』21頁

『ホント』が挙げる「主要都市」は
福島市をはじめ、避難指示が
出されなかった市です。

『ホント』によれば、

その福島市でさえ、空間線量率は
毎時0・15マイクロシーベルト、
年間1・3ミリシーベルトです。

東京、ニューヨーク、パリの
毎時0・04マイクロシーベルトの
約4倍です。

浪江町では、年間6ミリシーベルトを
超える地域でも避難指示が解除され、
帰還が強要されています。



※2018.3.1時点

日本		EU		アメリカ	コーデックス
飲料水	10	飲料水	1000		
牛乳	50	乳製品	1000		
乳児用食品	50	乳児用食品	400		乳児用食品 1000
一般食品	100	一般食品	1250	食品 1200	一般食品 1000

「平常」時

緊急時

「平常」時の日本の基準と、緊急時の外国のゆるい基準を比較するトリック

『ホント』24頁の図に書き込みました。日本の食品基準値は原発事故翌年の「平常」時の値なのに、外国の基準値は事故直後の緊急時の値です。同じ状況の基準値を比べなければいけないのに、違う状況の値を比べ「世界で最も厳しいレベル」に見せるトリックです。

現在の基準値（kgあたり放射性セシウム100ベクレル）は福島原発事故前年の国産農作物の1000倍です。もっと下げて、被ばくを少なくするべきです。

『ホント』23頁

私たちがふだん口にしている食べ物
安心して食べていいの？

日本は世界で最も厳しいレベルの
基準を設定して食品や飲料水の
検査をしており、基準を超えた場合は、
売り場に出ないようになっています。

福島県では現在、基準を超えているものはほとんどありません。

「ホント」が掲げる「放射線100のポイント」 その10

東京電力福島第一原子力発電所周辺地域の人々は
今どうしているの？

福島県では約190万人の人々が通常の生活を送っています。

また、県全体の面積の2.7%まで避難指示区域が縮小し、

ふるさとに帰った人たちにも

日常の暮らしが戻りつつあります。

現在も約5万人が避難生活を強いられています。

富岡町や浪江町の一部でも避難指示が

解除されましたが、帰った人は4%程度です*

高齢者が多く、子どもや若い人は、

ほとんど帰っていません。

事故前の何倍、何十倍も被ばくしながら

暮らしています。

避難指示が出されなかった地域の人々も

同じです。

そんな生活が「日常の暮らし」ですか？

*2018.4.1 東京新聞



『放射線のホント』はウソだらけの 「放射能安全」教育

＜10ヶ条の放射能安全宣伝と結論＞

『放射線のホント』は**放射能の怖さを伝えず、逆に”放射能は怖くない”と宣伝**しています。そのポイントが10ヶ条の「放射能安全」教育・ウソ宣伝で、「(避難指示が解除された区域に) 戻った人々にも日常の暮らしが戻りつつあります」が結論です。子どもたちや若い人々が戻れない福島の人々の苦悩を無視したウソ宣伝です。

＜文科省の放射線副読本にも波及！＞

『放射線のホント』は2017年12月の「風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦略」に基づいて作成されました。2018年10月には、文科省の放射線副読本にも波及、10ヶ条の「放射能安全」宣伝と「結論」が盛り込まれています。

＜「安全」教育が放射能への警戒を解除＞

こうした「放射能安全」教育がはびこると、放射能から身を守れない人々が多くなります。特に、放射能感受性の高い子どもが学校で教え込まれたら、深刻な影響を受けます。

＜賠償拒否・再稼働促進の世論誘導＞

”福島原発事故で住民の健康被害は起こらなかったし、今後も起きない”というのが『放射線のホント』の主張です。東電・国は賠償する必要がないし、原発再稼働も問題ないという世論誘導が強まります。

＜『放射線のホント』廃刊署名にご協力を！＞

ネット署名サイト <https://goo.gl/U85KaK>

署名用紙 <https://goo.gl/m3Pz2i>

発行：2018年12月 放射線被ばくを学習する会 <https://goo.gl/3AbKYE> anti-hibaku@ab.auone-net.jp